

# Green 通信 vol.15

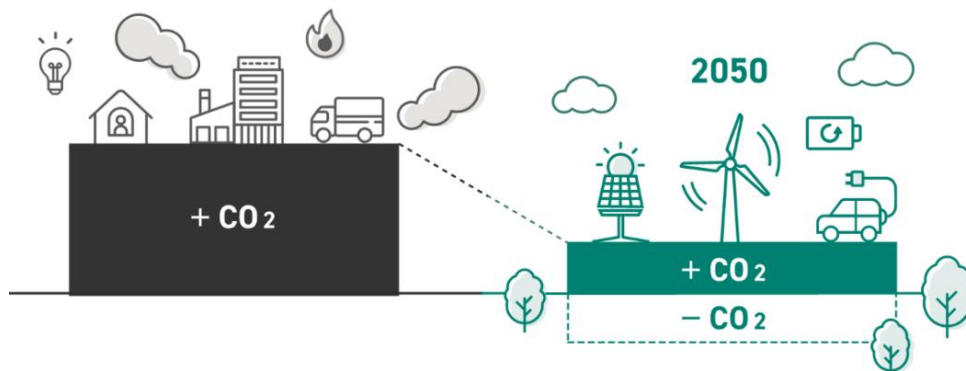
令和4年度 第2号

環境推進ワーキンググループ

2020年10月、日本は2050年までに「**カーボンニュートラル**」を目指すことを宣言しました。今回の通信では、カーボンニュートラルへの理解を深めるとともに、私たちが日常生活でできる取り組みについても紹介していきたいと思えます。是非、この機会に環境問題について考えてみましょう！

## 1. カーボンニュートラルについて

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスを大幅に削減した上で、残った「**排出量**」から植林や森林管理などによる「**吸収量**」を差し引いて、合計を実質的に「**ゼロ**」にすることを目指しています。つまり、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。



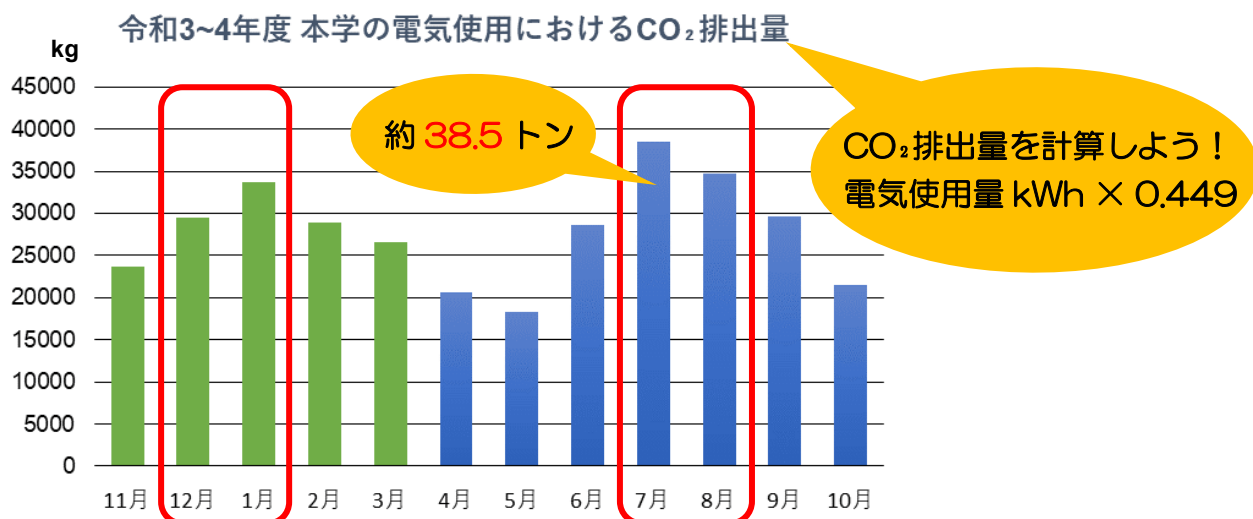
## 2. 温室効果ガスによる環境への影響

人間活動による温室効果ガスには、二酸化炭素のほかにメタンなどもありますが、温室効果の60%が**二酸化炭素**とされています。二酸化炭素が増えると地球から宇宙への熱放散が抑制されてしまい、**気温が上昇**し異常気象や気象災害につながります。



### 3. 温室効果ガスの排出量

現在、日本では年間で 12 億トンを超える温室効果ガスを排出しており、私たちのさまざまな日常生活も温室効果ガスの排出につながっています。今回は学内の電気使用量から二酸化炭素の排出量を計算してみました。なお、環境省の取りまとめた平成 31 年度の近畿地方の世帯当たりの年間二酸化炭素排出量は 2.17 トン（内電気由来のものは 1.37 トン）となっています。



※ CO<sub>2</sub> 排出係数 (0.449) は、2021 年度中部電力の係数を使用

冬期や夏期に二酸化炭素の排出量が増加傾向にあります。

### 4. 今日から始める環境への配慮

- 使用していない電気はこまめに消す。
- エアコンの設定温度（夏期 28℃、冬期 20℃）に気をつける。
- 食器などを洗うときにはお湯を流しっぱなしにしない。
- 買物袋を持参する。（年間 12 回以上使えば、二酸化炭素削減に効果あり）
- リサイクルを心がける。
- 駐車場で車のアイドリングをやめる。
- なるべく徒歩や自転車を利用する。

今回は「カーボンニュートラル」を紹介するとともに、学内の電気使用量から二酸化炭素の排出量を調べてみました。他にガスや水道の使用等も関わっているという現状から、私達自身の課題を見つけ、意識を変えていきたいものです。

引き続き、環境推進活動へのご協力をよろしくお願いします。

